

<h1>ほのぼの</h1>	第19号 平成20年 7月	発行 神戸市須磨区戎町1-2-3 TEL 078-732-5209 信行寺門信徒会
---------------	---------------------	--

(聖人誕生の地、日野の里、法界寺におわす阿弥陀さま)

むかし 法師あり
 親鸞と名づく
 殿上に生まれて 庶民の心あり
 貧道なりて高貴の性を失わず



すでにして愛欲の断ち難きを知り
 俗に帰れども 道心を捨てず
 一生凡夫にして
 大涅槃の終わりを期す

人間のなつかしみて
 人になすむあたわざる
 名利の空なるを知りて
 離れえざるを悲しむ
 流浪の生涯に常楽の郷里を慕い
 孤独の淋しさに
 万人の悩みを思う

聖教を開くも文字を見ず
 ただ言葉のひびきを聞く
 正法を説けども師弟を言わず
 ひとえに同朋の縁をよろこぶ
 本願を仰いで

身の善悪をかえりみず
 念仏に親しんでは
 自から無碍の一道を知る

人に知られざるを憂えず
 ただ世を汚さんことを恐るる
 己身の罪障に徹して
 一切群生の救いを願う

その人ゆきて数世紀
 長えに死せるがごとし
 その人去りて七百年
 今なお生けるがごとし

その人憶いてわれは生き
 その人を忘れてわれは迷う
 曠劫多少の縁
 喜びに尽くることなし

《金子大栄先生のことば》

鬼の角 (おにのつゝ)

住職

ふつう鬼と聞けば、頭には角がはえており虎の皮のパンツをはき、金棒をもった恐ろしい姿を思い浮かべます。「鬼に金棒」、「鬼の目にも涙」、「鬼のいぬ間に洗濯」などのことわざもありますし、恐ろしい赤鬼、青鬼、黒鬼などの名称も、「桃太郎のはなし」もすぐに頭にうかびます。また2月の節分には、「鬼は外、福は内」と言って、豆まきをするのが日本の慣例になっていますから、鬼は私たちの身近なところにいます。しかし、自分とは関係ないものだと思っています。ほんとうに鬼と私たちは関係がないのでしょうか。

「鬼には角がある」

むかしの有名な妙好人に、自画像に角を描いてもらった人がいます。自画像を描いてもらったら普通の顔だったので、自分は鬼だから角がはえていない姿は自分ではないと言つて、角を二本描いてもらったそうです。



空城

このエピソードは、私の生きている現実を教えてくださいます。鬼の顔は恐ろしい。これは私の心の真相です。腹の中に死ぬまで消えることのない

い恐ろしいものをもつて日暮している現実。2本の角は、邪見と驕慢です。「邪見驕慢悪衆生」と「正信偈」さんにあります。

邪見とは、「ありのままをありのままに」受け取らないことです。自分につごうがいいように受け取る。自分の思っていることが一番正しいと思ひこんで生きていることです。

驕慢とはうぬぼれです。自分が他より優れていると思つていることです。

「慣れはほんとうのことを見えなくする」

2本の角は、どちらも他の人を突いたり、抑えつけたりします。まわりの人を傷つけます。しかも、「自分は正しい」という旗印のもとに無意識の中でおこなわれます。だから、しまつが悪い。気づいていないから、実際には相手を傷つけても自分が悪いと意識しない。むしろ相手を非難する。これが私の角です。他人のはよく見えるのですが、自分の角はなかなか見えません。光に遇はなければ見えません。南無阿弥陀仏に遇わなければ、恥ずかしいわが姿が見えませぬ。

汗をかき 恥をかいて南無阿弥陀仏



法事というもの

時代の流れ、というのでしょうか。最近、都会では、お葬式のみならず、満中陰や年忌などの法事も、自宅やお寺でなく会館施設で行われることが多くなってきました。先日も近くの葬儀社の会館で、年忌法要が勤められました。そのお宅のご主人のお母さんの七回忌と、お父さんの五十回忌を併せた法事です。

お勤めの後、会館の中にあるレストランに移動して、参詣者一同での会食となりました。

二列に並べられたテーブルの傍らに、小さな机が置かれ、その上には、今日、法事をお勤めしたお二人と、年忌には当たってはいませんが、お祖母さんの三人の生前の写真が飾られてありました。

和やかな雰囲気を一層和やかにしているのは、三人の小さな子どもたちです。その中で一番幼い五歳の男の子が、目の前に並べられたご馳走を夢中で食べていた箸をふと止めて、じつと三枚の写真を見つめて、隣に座っているお母さんに尋ねました。「ねえ。あれはだあれ？」

お母さんは丁寧の説明を始めます。「一番左がね、お祖父ちゃんのお母さん。真ん中は、お祖父ちゃんのお父さん。それから、お祖父ちゃんのお祖母ちゃんよ」男の

子は「ふーん」と、不思議そうに三枚の写真を見つめています。その様子を見ていて改めて、「ああこれが法事というものなんだ」と思いました。

彼は、きつとその感性の中で生命の流れというものを、幼いなりに感じ取っているのでしょう。それはやがて、この子の中で、生命というものへの畏敬の念として育ってくるはずです。

同じ法事とは言ってみても、満中陰と五十回忌では、その雰囲気が大いに異なります。

やはり三回忌までは、直接に人の死を悼むことが表面に出てきます。そういうときにとまどうのは、食事のときの「乾杯」です。これから参詣者一同で会食をしようとするとき、最初に誰かが乾杯の発声をするのですが、どうも、乾杯というのはおめでたい席での言葉とされてくるようで、大声で、「乾杯ー」と言うのが憚（はばか）られるみたいです。それならいつそ、思い切つて、乾杯を、「食膳の言葉」に変えてはいかががでしょう。「み仏と、皆様のおかげにより、このご馳走を恵まれました」と、言えがいいのです。後は一同で、「深くご恩を喜び、ありがたくいただきます」と、唱和します。法事の意味が生きてきますよ。

「御堂さんより」



花まつり子ども大会

子どもたちの読経

花飾りの中のお釈迦さま



甘茶の中からひょっこりと
お出になったか お釈迦さま
天上天下を指さして——

子どもの頃の懐かしい歌を思い出しました。4月13日(日)恒例の花まつり。大勢の子どもさんが参加されました。

副住職のご長男空城君、その友人数名と長女の光輪ちゃんは、夏休みにお経の特訓を受け、堂々と読経されました。すばらしいご成長ぶりです。

今年は、折り紙遊びのほか、神戸女子大学のお姉さん方による昔話の人形劇をしていただきました。大人も懐かしい昔話の絵巻を繰り広げながら

子どもたちと一緒に楽しいひと時でした。礼拝堂も、風船が弾けんばかりの大賑わいでした。

来年もお子さんを誘って、お寺に足を運んで下さいますようお願い致します。(泉井 記)

現在子どもさんが、家庭や学校生活などで置かれている環境は、決して良好とは言えません。「いじめ」や暴力、大人への不信感、競争社会でのストレス

そのような中でお寺でのこのような催しが精神的なオアシスにでもなればと痛感しました。



女子大生の演じる人形劇

平成二十年度

信行寺門信徒会総会

平成二十年四月二十六日（土）門信徒会の総会が開催されました。川口さんの司会のもと、議長に月田副会長を選出、十九年度の事業報告、会計報告、二十年度の事



議長の月田副会長

業計画、予算案の審議を終え、異議なく承認され終了しました。

またお世話下さる役員の方々も、昨年同様留任されて二十年度の事業計画を実行していただくことになりました。

会員三百名の大台に

平成十四年六月に会員百七十五名で発足した門信徒会も、六年を経過した今日、三百名の大台に迫ってきました。寺報の発行も、カラフルな写真を取り入れて、広報としても恥ずかしくない内容を整えてまいりました。その他旧跡参拝旅行、夏期特別法座、念仏奉仕団等の事業計画もますますお世話に力がこもってまいります。

震災で全焼し、いく末をを案じた十三年前を思うと、今日の隆昌は夢のように感慨無量です。

総代を始め、お世話くださった役員の方々、地道なお力添えと、ご協力くださった門徒の方々の結集の成果が華開いたと申すべきでしょう。

二十年度を契機に、更に発展を目指して跳躍の年としたいものです。

春の彼岸法要《神戸別院にて》

三月十九日から神戸別院で春の彼岸法要が勤修されました。十九日と二十一日の二日に亘って、信行寺住職の法話があり、私たち門信徒も聴聞させていただきました。人は与えられた時間の中で生きていきます。



(神戸別院本堂)

「何のために生きたのだろうか」と晩年になると考えるようになります。「歎異抄」第二章にある「往生極楽のみちを問ひ聞かんがためなり」という答えはなかなか出ませんが、教えを聞いて初めて「そうだった——」と気づかされるものです。人間は仏になるために生まれさせてもらいました。お念仏にであつたことをありがたく受けとめ感謝の日々を送らせていただきたいと思います。

(月田 記)

春の彼岸法要が勤まりました

三月十五日と十六日の二日間に亘って、信行寺の「春の彼岸法要」が勤まりました。当日は「信行寺の行事はお天気が良い」と言われる「ジंकクス」通りで、二日間ともに上々のお天気に恵まれました。

例によって、当院の空城君と光輪ちゃんも色衣に五条袈裟姿にて出勤され『正信偈』をお勤めされました。

二日目の十六日には、滋賀県・報恩寺の藤実無極住職による法話を拝聴させていただきました。藤実師は、当院の住職とご本山にて、共に重要な旧知の間柄で、当院の『復興落慶法要』を始め幾度も来院された、とても縁の深い方であります。

藤実師は「春彼岸におもう」と言う講題でのお話をされました。満堂の参詣者一同、感銘深く受け止めさせていただきました。その法話の中で、「若く見える十か条と云うお話があり、非常に関心がありましたので、次に記してみました。①肌には艶と張りがある。②動き(フットワーク)が軽い。③常に新しいことに挑戦している。④表情が生きいきとしている。⑤何事も好奇心が旺盛である。⑦目標や夢を持っている。⑧歩き方が活発で爽やかである。⑨自分流にお洒落を楽しんでいる。⑩異性への関心を失わない。

どうですか。今日からご一緒に実践してみませんか。

(川口 昭次 記)

安芸の真宗寺院参拝と

瀬戸内海の名所を訪ねて



(長善寺本堂前にて)

さる六月九日、十日、二日間の研修でした。梅雨時でしたが、お天気に恵まれ、参加者二十一名で出発しました。

最初は足利義山和上、京都女子大学を創設した甲斐和里子さんと縁のある明浄寺に参拝。お寺の由来をお聞きし、現在の本堂は約二

八〇年たっています。樗を使用した柱の太さに驚きました。

次に、長善寺に参拝。長善寺に関わる血の歴史を聞き、一向一揆、信長と本願寺が十一年間戦った石山戦争（宗教戦争）、石山合戦の時使った旗などの説明を受けました。この日の宿泊は木の江温泉清風館。豪華な食事、カラオケ、塩湯の温泉で疲れをとりました。

翌日は、呉の住蓮寺に参拝。勤皇派の僧侶宇都宮黙霖が生を受けた所です。明治維新の勤皇僧として、吉田松陰と倒幕に奔走し、時代の思想家として、明治維新の陰の力になった方だと説明を受けました。

それぞれのお寺の持つ由来と歴史をお聞きすることができ、新たな知識をさすかり、大いなる感動でした。また、参拝の合間に竹原の町並みの散策、江戸時代朝鮮通信使の接待所であった松涛園、音戸の瀬戸などを見学し、神戸へ無事に帰ってまいりました。

この研修は昭和六十年から実施されているとの事。皆様も是非ご参加ください。

(江島 朱実 記)

第35回『親鸞聖人』報恩まつり

みやび会コーラスも出演

平成20年5月27日(火) 神戸文化ホールにて修行されました。当寺のコーラスグループ「みやび会」も出演、「真宗宗歌」をはじめ数曲の讃歌を披露し絶賛を得ました。記念法話は「節談説法」という珍しい説法があり、時の話題を交えてユーモアたっぷりに50分の熱演、最終は映画「母(かあ)べえ」

師法松島を説法談節



を鑑賞しました。戦中戦後の苦難を経験した人々にとっては、身につまされる思いで言葉もありませんでした

信行寺行事予定とご案内

行事	日時	場所及び講師
夏期法座	8月18日(月)	シーパル須磨
秋の彼岸法要	9月27日(土) 9月28日(日)	信行寺 住職 天岸浄円 師
西大谷納骨参拝	10月19日 (第3日曜日)	皆さん方の一人でも多くのご参詣をお待ちしております。
本山念仏奉仕団	11月7日(金) 8日(土)	

編集後記

「ほのぼの」の発行も次回でいよいよ二十回になります。今まで発行された各号を見ておきますと、信行寺の行事の過程がよく分かります。「次はどのような企画で」、お世話下さる役員の方々も、行事がマンネリ化しないようにと気苦労が大変です。今年「花まつり」は大学生の人形劇があつて盛大でした。お寺が子どもさんの声で賑わうのは本当に嬉しいことです。(森本記)